

# 悪者

私は悪者です。  
私を知っている人の中には私を悪者だと思っている人がいます。

しかし実際に私は、悪者と呼ばれても仕方ない大事件を犯してしまいました。

当時、私は勤務先のトラックで夜間の仕事をしていました。

事件を起こした日は、とても冷えた、雪の降る夜でした。通い慣れた道を使って現場に到着した私は、トラックに荷物を積み込むまでの待機時間を利用して、スマートフォンのゲームアプリで時間を潰していました。作業開始から数時間で積み込みは終わり、その日の作業が終了しました。

いつもより1、2時間早く作業が終了したので、「今日はラッキー」と思い現場を後にしました。

そして、いつものように通い慣れた道を使って帰宅に向い、5分ほど走ったところで大きな交差点に入りました。

私は、この交差点を右折する際、スマートフォンのゲームアプリに見入って、大事件を起こしてしまいました。

スマートフォンは直接手に持っていたのではなく、ハンドル前方のメーターに置き、何時でも見られるようゲームアプリは起動した状態にしていました。

私は普段から、「手に持っていないければ大丈夫」という甘い考えからスマートフォンをメーターの前に置いて、地図などを見ていました。

しかし、この自分勝手な甘い考えが私を悪者にしたのです。

私が右折を始めると、横断歩道上で何か柔らかな物を踏んだような感触がハンドルから伝わってきました。

これは物ではない、人だと思い、急ブレーキをかけた。

しかし、トラックはすぐには止まらず、10メートルぐらい進んだ所でようやく止まりました。

私はすぐにトラックから降りて横断歩道上を確認しましたが、人らしい姿は見当たりませんでした。

そこで恐ろしくトラックの下を覗いたところ、人の様な物が挟まっていました。

私は今まで頭の中が真っ白になった経験はありませんでしたが、この時は初めて頭の中が真っ白になりました。

何をどうしたらよいか分からず、ただ呆然としていて、近くを歩いていた人達が救急車等の手配をしてくれ、被害者に声を掛けるなどの救護活動を一緒にやってくれました。

今思えば、この人達がいなければ私は何も出来なかったと思います。とても感謝しています。  
わずか数分間の出来事でしたが、私には何時間にも長く感じられました。

その後私は到着した警察官に逮捕され、手錠を掛けられました。

全てのことが初めてで、頭の中が整理できないまま取り調べが始まりました。

そして私が少し落ち着いたところで「被害者の方が亡くなった」と教えられました。

警察の方は、私が物凄く取り乱していたので、落ちてから教えてくれたのだと思います。

その後、特に情報が得られぬまま三日ほど経ち、家族のもとに帰ることが出来ました。

そして裁判の結果、私は過失運転致死罪で禁固2年の刑を言い渡されました。

事件を起こしてから判決が出るまで1年近くかかりましたが、判決を聞くまでは生きた心地がしませんでした。

ようやく判決が決まったことで、少し「ホッ」としました。自分の中では「刑務所に入って反省してくれば、もう償いは終わった」と思っていました。

そのため受刑生活が始まった当初は「本当に私は悪い事をしたの？」といった無責任な考えから何もせず無駄な日々を過ごしていました。

しかし、受刑生活が1年を経過したところから、その考えは大きな間違いだと気づき、自分勝手な考えを反省すると共に、少しは物事を深く考えられるようになりました。

そして、御遺族の心情に触れる教育を受けているうちに、自分本位の考えを改め「御遺族の気持ちに寄り添った償いをしよう」という気持ちに変わってきました。  
しかし、それは私の心の中の変化であって、御遺族に見れば、行動で示さない限り、これまでと同じ悪人・悪者でしかありません。

私はこれまで何一つ償いらしいことはしていませんが、これからは人生を掛けて、自分の過ちに対する償いを果たそうと考えています。

そのため第一歩として、御遺族の許しを得て直接謝罪をしたいと考えています。

そして少しでも御遺族の希望に沿える「償い」を続けたいと思っています。

# 交通安全情報

# 贖いの日々



「贖いの日々」は、  
東京都交通安全協会が  
発行しています。